

RE:VOIR

2025.11.13 (木) — 30 (日)

東京日仏学院 エスパス・イマージュ

Du 13 au 30 novembre 2025
à l'Institut français de Tokyo

Festival Cinéma Expérimental Français 2025



【フランス実験映画祭2025】



涎と永遠についての概論



エコーズ・オブ・サイレンス/沈黙のこだま



灰の車輪



単純な物語



マドリードの十月



夏(「四季」シリーズ)

実験映画とは何か？

それは、観る者に挑み、新たな「見る」という体験への扉を開く映画だ。そして伝統的なストーリーテリングを拒み、映画というメディアを新たな方向へと押し進め、表現の新しい可能性を切り拓こうとする映画である。

フランスには、映画作りの長い歴史と深い関わりがある。ドキュメンタリー(リュミエール)とフィクション(メリエス)のもっとも初期の形態はフランスで生み出された。タダやシュルレアリスムの映画は1920年代にフランスで撮影され、紹介された。1950年代にはレトリズム運動、1970年代には最初の映画製作者協同組合が誕生するなど、とりわけ創作活動が活発な時期があった。本映画祭ではこうしたフランスにおける実験映画の豊かな歴史の広がりを紹介していく。イジドール・イズーの『涎と永遠についての概論』は、まさに映画におけるラディカルな創造のマニフェストである。私が監督した『フリー・ラディカルズ』は実験映画の黎明期約10年を概観する作品だ。パトリック・ボカノウスキーの『天使/L'ANGE』は、何年にもわたってアニメーションとコンボジット(映像合成)の新しい技法を探索している。マルセル・アヌーンの映画は、メタ・ナラティブとして、映画制作のプロセス自体をフィクションの中に取り込もうとする試みである。ピーター・ゴールドマンやアドルフ・アリエッタは、フランスのアヴァンギャルドやヌーヴェルヴァーグに触発され、フランスに渡り、ゴダール、デュラスの支援を受けながら、それぞれ独特の作風の映画を生み出した。この一連の作品群は、フランスにおけるインディペンデント映画の多様なあり方を垣間見せてくれるだろう。

——ピップ・チョードロフ

イジドール・イズー生誕100年記念 Hommage au centenaire d'Isidore Isou

涎と永遠についての概論 *Traité de bave et d'éternité*

[フランス/1951年/120分/モノクロ/フランス語]

ルーマニア出身の詩人イジドール・イズー(1925-2007)による、フランスの前衛芸術運動レトリズムを代表する実験映画の金字塔的作品。本人の詩の朗読を背景に、スクラッチ、写真などを使用した映像が、断片的なモンタージュによって構成されている。ジャン・コクトーに絶賛され、ギー・ドゥボールにも多大な影響を与えた。また本作には、モーリス・ルメートルが助監督および編集として参加している。

観客は映画館を去り、盲目になり、耳は潰れ、言葉とイメージとの分裂によって引き裂かれなくてはならない。言葉と写真とのあいだの断絶は、わたしが「ディスクレパン」映画と呼ぶものを形成するだろう。わたしはここに、ディスクレパン映画のマニフェストを宣言する!——イジドール・イズー

ピーター・エマニュエル・ゴールドマン Peter Emmanuel Goldman

エコーズ・オブ・サイレンス/沈黙のこだま *Echoes of Silence*

[アメリカ/1964年/74分/モノクロ/英語]

出演:ミゲル・チャコル、ウラク・アモンシン、ブランチ・ゼリカ

1960年代のNYをさまよう若者たち。手書きのインサートタイトルやさまざまな音楽をともなった断片的かつ実験的なスタイルにより、1960年代のNYの生活空間が鮮明に立ちのぼる。ゴダールやジョナス・メカスが絶賛した、ニュー・アメリカン・シネマの記念碑的作品。アンダーグラウンド映画とゴダール映画の長所をもって、友人たちの生活や感覚をシンプルな物語として紡いだ。……『沈黙のこだま』は非常に美しいテーマと形式をそなえた映画である——ジョナス・メカス

灰の車輪 *Wheel of Ashes*

[フランス/1968年/95分/モノクロ/フランス語]

出演:ビエール・クレマンティ、カティンカ・ボー、ビエール・ブザンソン、ジュリエット・ペルト
1968年5月革命直前のパリ、左岸の街角やカフェを彷徨う主人公ビエールは、救済を求める禁欲的な探求と肉欲的な愛の誘惑の間を漂う。ゴールドマンがNYからパリに渡って監督した長編第2作。慧星のごとく俳優として急上昇していたビエール・クレマンティはブニュエルとパゾリーニとの協働の合間を縫って、6週間にわたりゴールドマンと撮影した。その極小予算にはジャン＝リュック・ゴダールの支援も含まれていた。本作はカンヌ国際映画祭監督週間第1回目に出品された。

マルセル・アヌーン Marcel Hanoun

単純な物語 *Une simple histoire*

[フランス/1958年/64分/モノクロ/フランス語]

出演:レイモン・ジュールダン、ジレット・バルビエ、マドレーヌ・マリオン、マリア・メリコ

ある女性が、幼い娘とともに実家を追い出され、パリにやってくる。安定した居住地と仕事を探して寢床を転々とするが、ついに所持金が尽きて、野宿をすることになる。ゴダールは、ブレッソンとネオレアリズモが融合したものとして『単純な物語』を絶賛した。『単純な物語』は、新たな映画のリアリティと、シンプルな物語に不自然な美と力をもたらされるような、フーガ的な語りの形式を創造した——ジョナサン・ローゼンバウム

マドリードの十月 *Octobre à Madrid*

[フランス/1964年/63分/モノクロ/フランス語]

出演:ショネット・ローラン、オーギュスタン・レネ、ジョゼ・メネゼス

ある映画監督がスペインでドキュメンタリーを撮影中、マドリードで新作のアイデアを思いつくが、製作は難航。当初予定していたカルメン役の女優が辞退し、監督はマドリードの街で代役を探すことに。映画はその製作過程そのものを描くドキュメンタリーへと変化していく。『マドリードの十月』は、まさにすべての映画作家が夢見る「映画についての映画」である。欲望と仕事、映画と人生との境界線があいまいになり、逆転する——これこそアヌーンが撮影したものであり、映画製作における映画作家の人生である——ジャン・ルイ＝コモリ

夏(「四季」シリーズ) *L'Été* « Les Saisons »

[フランス/1968年/64分/モノクロ/フランス語]

出演:グラジエラ・ブッシ、ビエール＝アンリ・ドゥロー

「四季」シリーズ第一作。1968年の五月革命ののち、ノルマンディの田舎で隠遁する女性は、革命家の恋人を思う。恋人について語る女性の声と、当時のスローガンや写真がモンタージュされ、製作と同年に起きた五月革命について想起し、思索する。ジョナス・メカスは、『春』までの「四季」シリーズと『単純な物語』を観て、アヌーンを「ブレッソン以降の最も重要で最も興味深いフランスの映画作家」と評した。

冬(「四季」シリーズ) *L'Hiver* « Les Saisons »

[フランス/1969年/78分/モノクロ・カラー/フランス語]

出演:ディジアナ・シファイ、ミシェル・ロンスデール、クリスチャン・バルビエ、フレデリック・ラタン
ベルギーの街ブルージュでドキュメンタリーを撮影しようとする映画監督は、映画制作が思うように進まず、女優である妻ともすれ違ってしまふ。運河と石畳の道を擁するブルージュの都市の光景や、そこにある美術作品と、登場人物たちの感情や行動が、モノクロやカラーの混在したさまざまなショットとのモンタージュをととして融合していく。

春(「四季」シリーズ) *Le Printemps* « Les Saisons »

[フランス/1970年/78分/モノクロ・カラー/フランス語]

出演:ミシェル・ロンスデール、レイモンド・ゴドー、ヴェロニク・アンドリエ、カトリーヌ・ビネー
農村で老婆と二人で暮らす少女と、その近くの森に隠れ、ひたすら何かから走って逃げている男性とが並行して描かれる。最後まで出会うことのない断絶した二人の間に、カットバックによって緊張感がもたらされる。アヌーンは『冬』でカトリーヌ・ビネとともに編集作業を進めていく中で本作の着想を得て、本作の脚本をビネと共同執筆した。

秋(「四季」シリーズ) *L'Automne* « Les Saisons »

[フランス/1972年/75分/モノクロ・カラー/フランス語]

出演:ミシェル・ロンスデール、タミア

編集室で、映画監督と編集助手の女性が、撮影フィルムの編集作業をしている。会話しながら編集作業をし、やがて関係性に変化が生じていく二人をカメラは二人の正面＝編集される映画の側からとらえ、観客もまたその作業に参与することになる。今作は「四季」シリーズのなかでも、映画製作についての映画という性質が色濃く、編集というもっとも映画的な営為を中心に、映画を撮ること・観ることへの思索がなされている。

アドルフ・アリエッタ Adolpho Arrietta

炎 *Flammes*

[フランス/1982年/87分/カラー/フランス語]

出演:キャロリーヌ・ロープ、ディオニス・マスコロ、バスカル・グレゴリー

台風の吹き荒れるある夜、少女バーバラは、窓辺に消防士の男のシルエットを見つける。その晩から彼女は消防士のことが頭から離れなくなり、時が経っても消防士のことを夢想しつづける。やがて彼女は、消防士と出会うために、虚偽の火事の通報をしてしまふ。デュラスが称賛した映画作家アリエッタによる、現実と幻想の交錯した夢幻的な最高傑作。今日もなお、叙情性、夢、詩、欲望を信じているすべての若い映画製作者たちにとって、インスピレーションの源であり続けている——オリヴィエ・ペール

パトリック・ボカノウスキー Patrick Bokanowski

天使/L'ANGE *L'Ange*

[フランス/1982年/64分/カラー/フランス語]

出演:モリス・バケ、リタ・ルノワール、ジャン＝マリー・ボン

撮影に2年、特殊効果と編集に3年を要したパトリック・ボガノウスキー長編第1作。飛び散るミルク、木版画のような空間、膨大な書籍と図書館員たち、浜辺の立方体の中の裸の女たち——画家フェルメールが、小説家カフカが描き出したような七つのシークエンスからなる打ち奇せる幻想的な映像、綿密に設計された光と音による鮮明なイメージに彩られた7つの断片的なシークエンスによって構成されている。音楽は妻のミシェル・ボガノウスキーによるオリジナルの弦楽器四十奏。カンヌ国際映画祭批評家週間上映ののち、全く新しいアヴァンギャルド映画として1980年代のアートシーンを席巻した。今回はピップ・チョードロフによる『パトリック・ボカノウスキーのアトリエ』(2017年/26分)を併映する。

ピップ・チョードロフ Pip Chodorov

フリー・ラディカルズ——実験映画の歴史 *Free Radicals*

[アメリカ/2011年/82分/カラー/フランス語]

戦後初期のバイオニアたちから、NYのアンソロジー・フィルム・アーカイブス設立の時代にいたるまでの、ヨーロッパとアメリカにおける前衛映画を振り返るドキュメンタリー。ジョナス・メカス、モーリス・ルメートル、ハンス・リヒター、スタン・ブラッケージなど、名だたる製作者たちのインタビューと、作家たちの実際の映像が織り交ぜられ、20世紀の実験映画の精神が鮮明に立ちのぼる。タイトルの「フリー・ラディカルズ」とは、1920年代に、そして1970年代にふたたび映画を実験的な映像詩へと向かわせたアーティストたちのこと。

※すべて日本語字幕付き



冬(「四季」シリーズ)



春(「四季」シリーズ)



秋(「四季」シリーズ)



炎



天使/L'ANGE



フリー・ラディカルズ——実験映画の歴史

世界の実験映画作品を古典から現代まで紹介するレーベル、RE:VOIR (www.re-voir.com) の創設者、主宰のピップ・チョードロフさんとともにフランスの実験映画を紹介します。トークゲストに山下宏洋さん (イメージフォーラムのプログラムディレクター)、上條葉月さん (字幕翻訳・文筆) もお迎えします。

上映スケジュール Calendrier

11.13 (木) 18:30 フリー・ラディカルズ *Free Radicals* (82分)
上映後、ピップ・チョードロフと山下宏洋によるトークショーあり
suivi d'une discussion avec Pip Chodorov et Koyo Yamashita

11.14 (金) 16:30 天使/L'Ange *L'Ange* (64分)
パトリック・ボカノウスキーのアトリエ
Patrick Bokanowski: Visite à l'atelier (26分)
上映前、ピップ・チョードロフによる作品紹介あり
précédé d'une présentation par Pip Chodorov

19:00 炎 *Flammes* (87分)
上映前、ピップ・チョードロフによる作品紹介あり
précédé d'une présentation par Pip Chodorov

11.15 (土) 11:00 <「四季」のシリーズ> 夏 *L'Été* (64分)
13:00 <「四季」のシリーズ> 冬 *L'Hiver* (78分)
15:00 <「四季」のシリーズ> 春 *Le Printemps* (78分)
17:00 <「四季」のシリーズ> 秋 *L'Automne* (75分)

19:00 マドリードの十月 *Octobre à Madrid* (63分)
上映後、ピップ・チョードロフと上條葉月によるトークショーあり
suivi d'une discussion avec Pip Chodorov et Hazuki Kamijo

11.16 (日) 12:15 フリー・ラディカルズ *Free Radicals* (82分)
14:30 単純な物語 *Une simple histoire* (64分)
上映前、ピップ・チョードロフによる作品紹介あり
précédé d'une présentation par Pip Chodorov

16:30 沈黙のこだま *Echoes of silence* (76分)
上映前、ピップ・チョードロフによる作品紹介あり
précédé d'une présentation par Pip Chodorov

19:00 灰の車輪 *Wheel of Ashes* (95分)
上映前、ピップ・チョードロフによる作品紹介あり
précédé d'une présentation par Pip Chodorov

11.21 (金) 16:30 灰の車輪 *Wheel of Ashes* (95分)
19:00 沈黙のこだま *Echoes of silence* (76分)

11.28 (金) 16:30 マドリードの十月 *Octobre à Madrid* (63分)

18:30 涎と永遠についての概論 *Le Traité de bave et d'éternité* (120分)
上映後、ピップ・チョードロフによるオンライントークあり
suivi d'une discussion ligne avec Pip Chodorov

11.29 (土) 11:00 単純な物語 *Une simple histoire* (64分)

13:00 <「四季」のシリーズ> 夏 *L'Été* (64分)

15:00 <「四季」のシリーズ> 冬 *L'Hiver* (78分)

17:00 <「四季」のシリーズ> 春 *Le Printemps* (78分)

19:00 <「四季」のシリーズ> 秋 *L'Automne* (75分)

11.30 (日) 12:30 天使/L'Ange *L'Ange* (64分)
パトリック・ボカノウスキーのアトリエ
Patrick Bokanowski: Visite à l'atelier (26分)

15:00 炎 *Flammes* (87分)

17:30 涎と永遠についての概論 *Le Traité de bave et d'éternité* (120分)

入場料金：一律1,100円 (全席自由/チケット番号順)

Peatix (<https://ifjtokyo.peatix.com/events>)にて10.30 (木) 正午より発売。

窓口販売はございませんのでご注意ください

上映開始15分前開場：上映開始10分後以降の入場はご遠慮下さい



フランス実験映画祭 2025

主催：アンスティチュ・フランセ 助成：アンスティチュ・フランセ本部、CNC フィルム提供及び協力：アテネ・フランセ文化センター、ミストラルジャパン、上條葉月、Re:voir、tapetum works、東京都写真美術館 (敬称略)

Festival Cinéma Expérimental Français 2025

Organisé par l'Institut français de Tokyo | Avec le soutien du CNC | Remerciements : Centre culturel de l'Athénée français, Mistral Japan, Hazuki Kamijyo, Re:voir, tapetum works, Tokyo Photographic Art Museum

[会場・お問い合わせ]

東京日仏学院

〒162-8415 東京都新宿区山谷船河原町15

TEL 03-5206-2500 | FAX 03-5206-2501

f instituttokyo X institut_tokyo @ institut_tokyo

